

ふるさと奥尻通信

令和元年10月28日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

文化財保護法が改正されました。少子高齢化が進む今日、これまで不明確だった未指定の文化財を把握し、まちづくりに生かしながら、継承者や担い手を確保することがねらいです。

特集 奥尻町の神社祭祀 その①

文化財として定義されているものの中には様々なものがあります。まず、考古資料、建造物などの有形文化財があり、対して音楽、演劇、工芸技術などの無形文化財があります。他に民俗文化財と呼ばれるものがあり、これも有形と無形に分けられます。神社祭祀に代表される伝統的な祭礼は後者の無形民俗文化財に分類されています。

島内の神社は、これまでに合祀されて減少した社がいくつかあるものの、現在12カ所が存続しています。それぞれに例大祭の日程が決まっており、重ならないように順番に行われています。その多くが8月初旬からお盆過ぎまでで、農村地帯の富里、米岡の2地区のみ9月に行います。西海岸の神威脇地区は本来6月中ですが、8月中に行っています。現在は、昭和54年(1979)よりその職にあった宮司が亡くなってから、島内在住の宮司はおらず、行事のたびに島外から来てもらっている現状にあります。過去には、大正14年時点でも島に宮司がおらず、神社の財産等が内務省の神社明細帳から漏れており、証明してくれるよう地元から北海道庁長官宛てに願出していた記録が残っています。



令和元年度 神威山(奥津神社の山車)
奥尻島内の神社と例大祭の日どり

地区	神社	祭神	祭典日
神威脇	少名彦神社	少彦名命	6月7・8日
松江 ※合祀	八大龍神社	八大龍王神	7月12日
松江 ※合祀	毘沙門天社	毘沙門天	不明
稲穂	鷗崎神社	大国魂命	8月1・2日
勤太浜	稻荷神社	保食神	8月4・5日
松江	少名彦神社	少彦名命	8月7・8日
赤石	保食神社	宇気持命	8月9・10日
青苗	言代主神社	八重言代主神	8月12~14日
奥尻	奥津神社	奥津島姫命	8月13~15日
宮津	中津島神社	中津島姫命	8月16・17日
東風泊	海洋神社	大海龍神	8月19・20日
室津	室津島神社	大綿津見神	8月20・21日
米岡	齊明神社	天照皇太神	9月1・2日
富里	四ツ山稲荷神社	保食神	9月9・10日



球浦青年団が四箇散米舞を演じているところ 昭和30年代後半

さて、今年、奥尻地区の奥津神社の例大祭では久々に祭囃子の音色が響いていました。ちょうど寿都町の神楽保存会のメンバーが来島し、島内ではすっかり途絶えていた松前神楽が奉納され、代表的な演目や獅子舞を披露したのです。特に人気のあった演目の四箇散米舞が復活したのも話題となり、かつての子供が飛び入りして喜々として踊っていました。

この四箇散米舞は、松前神楽の演目の一つであり、昭和30年頃に奥尻で宮司を務めていた常磐井武秀氏が持ち込み、球浦地区の青年団が演じて広めたものと思われます。同50年頃には子供の役回りとなりましたが、ここ20年近く途絶えていたものです。子供が演じていた頃は、まだまだ島内の児童が数多くいた時代であり、その役が回ってくるのを楽しみにしていたそうです。演者には小遣いが渡されていたので、子供らにも特に人気があった訳です。その後、震災での中断を経て、平成10年代半ばころまで演じられていました。この他、奥津神社には神輿もありますが、ここしばらく出ていません。

一方、奥尻地区の隣、谷地地区には「子宝山」という山車があったのですが、こちらも、平成28年(2016)から出ていません。かつては奥尻地区の「神威山」と「子宝山」が町内会を曳き回して交差点で出会い、お互いに自分たちの持ち歌にて盆踊りを踊って競い合う、という華やかな場面がクライマックスでした。少子高齢化は地域の伝統文化の維持にも大きく影響しています。



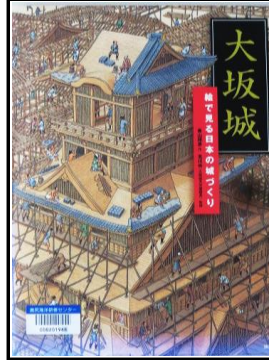
奥津神社拜殿で奉納された獅子舞



小学生の四箇散米舞 昭和50年代



昭和30年代の青苗地区、言代主神社例大祭時の神輿です。ちょうど昔の青苗郵便局前での一葉。神主を先頭に、白衣の担ぎ手と、右端には警察官の姿も。この神輿は、なんでも北海道での行幸啓の際に天覧に供される作品だったものが、輸送途中に遭難して奥尻島に荷揚げされ、その後青苗の祭りで保管、活用することになったのだそうです。平成5年の災害で失われてしまいましたので、詳しい調査が出来ないままです。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

大坂城 絵で見る日本の城づくり
青山邦彦

有名な大坂城ですが、最初の「大坂城」は、元々石山本願寺のあった場所を、織田信長が討伐、平定して建設されたのです。信長亡き後、池田氏の居城を経て、豊臣秀吉が入城、拡張して「豊臣大坂城」を築城。徳川家康の勝利後は、幕府によって大規模に改変され、現在の石垣や堀が築かれました。現在の天守閣は戦災で焼失した後に復興されたものです。



奥尻のつり 夏号



真夏も過ぎまして、あの暑さが恋しくなるような肌寒さを感じるこの頃です。6月解禁となったスルメイカ漁ですが、8月まではさっぱりでした。通常、9月に入ると、イカが好漁場として有名な武蔵堆、大和堆周辺に回遊し、ここに日本国や他の国の漁船(日本は100トン級の中型船)が集結して漁場を形成します。奥尻や檜山地方の小型船(10トン未満)の漁師はここまで遠くへは向かえませんので、沿岸での操業となりますが、イカの回遊が偏ると明暗を分けることとなります。今期は対岸の方に寄っているようで、奥尻勢は苦戦しております。一方、宮津港ではわずかながらアオリイカの回遊が見られ、南方のイカが北上してきていることが確認できます。彼らは水温の低下とともに姿を消していきますので、大きな群れになることはありません。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第36回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

かあだの	い賊時懸たしてときく来るた部い	八月十五日
手った	青様をずのられ居帰たたらち行くの	八月十五日
上た	蛭が木で見っ祭来ならっ。言ら茶くるの	八月十五日
だ	が子あさってとりていれて先う鈴だ津事では	八月十五日
。	、山あんだき東だいとたく生の木。のに今学	八月十五日
誰とたの	た風。な思のるがでさ鳥分し日校	八月十五日
が名。上	が泊俺かってか一皆ん賊担た茶に	八月十五日
掘を蛭の	余球はって、ら十乗のつ當。学集	八月十五日
(掘子宏	り島茶た学来な五せ船けの草校高日	八月十五日
つづ	く 刻つ山い	八月十五日
	つたに所	八月十五日
	っ木踊に	八月十五日
	たがの祭	八月十五日
	の山り	八月十五日

かであら原し装へ年繩てた催
さ流、石出飾玉前文、ヒさ新
れ通遠のさ品状一時青スれ
まし隔産れとでの代苗イて
すて地地て想中ヒ中遺ー
。いでいで定央ス期跡展
たああまさにイへかの
事るすれ穴製約ら展を
実奥新。るがの四出示
は尻瀧ヒ開大○土物わ
は島かスがき珠○たし
驚ま イ貸、○たし

縄文のヒスイ玉新潟へ



英語の必要性を再認識しました

い枝を館り奥をきに札が国尻波
い生深の部尻経た向幌集か島の九月
経がめ見隊島でもけ市まらで日月
験英て学のの二のてでりの行高七
と語いな講状十での行ま高わ校日
なでまど演況六す事わし校れ生
り解しをやを年。前れた生、サ八
ま説た行奥視目大研る。ら世ミ日
し。つ尻察をき修サ十約界ツ、世
たの元見津、え震しッか○カが界
も高識波語た災てトラ名カ奥津

世界津波高校生サミット

があいとシ当で降もら過
訪つ。は明一方、雪時寒ぎ暑
れた先言るズは今ま化くまい夏
る方のえイン、のでや日まし夏
よ々台、顔開秋うはす暮れ、あ
うに風天を幕・ちまくれ、あ
祈りに候して冬の冬間つ早
り穏にてすの磯支もてい
ます。害勝まで釣度をる。う
らにてすと

新糸之記録(編集後記)

さ学保地辞典掘い委調てン般
い芸管理典「調。事べい夕町
員さ・類、查道務、ま書民
にれ地、報内局勉す内と向
おて図ア地告市へ強がにしけ
気お関イ名書町ごし、図の
軽り係又大、村連たよ書貸
にま図関辞「史絡り室海し
相す書係典国、く方専を洋出
談のな図「史遺だは門整研し
くでど書等大跡さ町的備修用
だ、がの辞発教にしセ



カランセ奥尻竣工記念絵葉書